

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：32642

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13005

研究課題名(和文) A Comparative Study on Activities to Prevent Violence Against Women and Children by NPOs in Japan and Other Countries.

研究課題名(英文) A Comparative Study on Activities to Prevent Violence Against Women and Children by NPOs in Japan and Other Countries.

研究代表者

Gavan, P. Gray (Gray, Gavan Patrick)

津田塾大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80811249

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：このプロジェクトの主な成果は、エメラルド出版から出版された『ジェンダー・バイオレンス、法、そして社会』という本の一部として発表された。3つの単著の章と3つの共著の章を執筆した。

さらに、ウクライナ戦争における性暴力の政治的影響について、国際的な問題に関する会議で論文を発表するよう依頼され、これに基づいて査読付きの論文も発表した。研究結果は、他の9つの国際会議と3つのワークショップで発表した。また、アルバニアの国営テレビで、ジェンダー・バイオレンスとセクシュアル・ハラスメントに対する日本の対応についてインタビューを受けた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の法律では性風俗産業を「グレーゾーン」とみなしているため、そこで働く女性の搾取がより一般的になっている。経済的支援やプライバシー保護など、この産業の労働者の主要な利益も満たされていない。性暴力に関しては、最近の法律の大きな改正にもかかわらず、示談制度など多くの問題が残っている。ジェンダー規範に関しては、男性と女性の労働者間の変化のダイナミクスに焦点を当てたコミュニケーションと関係を構築できなかったことが、男性と女性の間の緊張を高める一因となっている。

研究成果の概要(英文)：The main focus of the research was gathering information from NGOs and other people in the field on the effectiveness of responses to gender and family violence in Japan and other countries. Mostly this was done through direct interviews. The Covid-19 pandemic had a significant impact on the project, causing several delays and making collaboration and participation in international events and fieldwork, in Japan and elsewhere, quite difficult. However, extensions to the length of the project helped overcome this.

I presented research papers based upon this research at 11 International conferences, and conducted 1 invited guest lecture, during the period of the project. I also gave one interview on the subject to a national tv station.

The main findings of the research were shared in one (single author) peer reviewed paper, 3 (co-authored) book chapters, and 3 (single author) book chapters.

研究分野：政治

キーワード：Gender Violence Gender Norms Sexual Violence Hate Speech

1. 研究開始当初の背景

この調査プロジェクトは、日本の男女平等ランキングが非常に低いという事実に基づいている。高い経済発展と生活の質にもかかわらず、世界の男女平等ランキングで日本は2018年の110位から、2023年には125位に下落した。非常に安全な国であるにもかかわらず、女性の権利と安全が危険や搾取に対して脆弱なままである分野がいくつか存在する。日本におけるこれらの問題の本質を研究し、諸外国に存在する問題や対応策と比較することで、これらの問題に対する理解を深め、日本が男女平等ランキングを向上させ、女性にとってより暮らしやすく働きやすい社会を作ることができると考えられる。また、こうした問題が子どもたちに与える影響もプロジェクトの検討範囲に含まれる。

2. 研究の目的

このプロジェクトの主な目的は、社会における女性の安全に影響を与える問題を特定し、その対応策の有効性を検討することである。これらの問題は非常に多岐にわたり、数も多いが、焦点を当てた重要な問題のいくつかは以下のとおりである。性的暴行と痴漢、女性のセクシュアル化、セクシュアル・ハラスメント、ジェンダーによるヘイトスピーチ、性風俗産業に伴う危険性、人身売買、家庭内暴力などである。プロジェクトの第二の目的は、これらの問題への対応に影響を与える社会規範や価値観を検証することである。これには、司法制度における女性被害者の扱い、女性に対する男性の態度、男女の行動や交流に対するジェンダー規範の影響、性風俗産業における性の商品化に対する態度、性産業で働く女性に対する態度といった分野を検討することが含まれる。これらの分野の多くは大きく重なり合っているため、個別に検討するのではなく、より総合的な方法で、いくつかの要因の相互作用を同時に検討することにした。

このプロジェクトは、他国で同様の問題がどのように扱われているかを調査することで、この理解を広げることを目的とした。具体的には、アイルランドとタイを参照点とした。アイルランドは先進国でありながら日本と同じような経済水準にあり、タイは同じアジアの国でありながら文化的特徴（集団主義、仏教徒など）が似ている。

3. 研究の方法

一次調査の方法論は、インタビューと観察フィールドワークによる質的データ収集と、これらの問題の過去、現在、発展途上の性質に関する関連報告書、論文、記事の二次テキスト分析の組み合わせである。毎年、日本、タイ、アイルランドのさまざまな政府関係者、法律専門家、NGOスタッフを含むグループとのインタビューが行われた。そのNGOのグループには、さまざまな問題に直面している女性や子どもを支援するために活動している機関と、女性たち自身が自分たちの代表となり、公的な発言力を高めるために設立した組織の両方が含まれていた。

プロジェクトを通して、定期的に学会・学術会議にも参加した。これは、現在進行中の調査結果を共有するためでもあるが、問題に対するより広い理解を深め、協力の可能性を探るために、同じような分野の他の研究者とのつながりを築くためでもある。

4. 研究成果

このプロジェクトの主な成果は、エメラルド出版から出版された『ジェンダー・バイオレンス、法、そして社会』という本の一部として発表された。報告者は3つの単著の章と3つの共著の章を執筆し、日本における性の商品化の問題、日本の性暴力法の変化、男性のジェンダー規範が日本の女性に与える影響について考察した。現在進行中の研究に基づき、ウクライナ戦争における性暴力の政治的影響について、国際的な問題に関する会議で論文を発表するよう依頼され、これに基づいて査読付きの論文も発表した。研究結果は、他の9つの国際会議でも発表し、日本で開催された2つのワークショップとタイで開催されたワークショップでも共有した。また、アルバニアの国営テレビで、ジェンダー・バイオレンスとセクシャル・ハラスメントに対する日本の対応についてインタビューを受けた。

主要な調査結果を要約する。性的商品化の問題に関して、日本は性風俗産業に対して二分化した寛容さを維持しており、一方では貞操と純潔に関する西洋キリスト教の影響を受けた規範を遵守していないと見なし、他方ではより大きな社会的調和と性的健康を促進するという点で、性産業を社会的善と見なしていることが分かった。この規範的態度は法的基準にも反映され、違法でも完全合法でもないグレーゾーンに置かれている。この明確性の欠如は、この業界で働く女性たちを、しばしば社会的烙印や虐待、不平等な法的保護の対象となる脆弱な立場に置く。さらに、プライバシー保護の欠如や経済的アドバイスの欠如など、女性セックス・ワーカーが直面するいくつかの大きな問題は、彼女たちの安全保障に悪影響を及ぼすが、広い社会からはほとんど認識されていない。

日本は最近、過去100年で初めて性暴力に関する法律に大きな改正を加えたが、依然として多くの問題が残っている。その中には、女性被害者の心理的・感情的ニーズに対応するような形で制度を変えることができなかったこと、性暴力に焦点を当てた専用の捜査・支援サービスが不

足していること、そして特に、性犯罪者が被害者に金銭を支払うことで法的処罰を回避することを頻繁に許す現在進行中の示談制度、つまり富裕層が意味のある処罰からほとんど逃れることができるプロセスなどが含まれる。

ジェンダーの規範の問題については、日本では男性が稼ぎ手、女性が育児をするという長年の規範が、いまだにジェンダー問題に大きな影響を及ぼしていることが分かった。女性の経済的自由が増したからこそ、こうした時代遅れの規範に関する社会的緊張が高まっている。かなりの数の男性が女性の社会進出に脅威を感じ、異性との交流に不快感を抱くようになったか、あるいは男性の権威が篡奪されたことに憤慨し、女性全体に対して否定的な態度をとるようになった。試験で優秀でなければならないという強いプレッシャーが若者にかかると、より健全なジェンダー・ダイナミクスを築くような社会化の余地が十分に与えられず、この問題を悪化させる。こうした要因は、女性差別や、多くの若い女性が搾取されている援助交際産業といった社会問題の発展に重要な役割を果たしている。女性の社会進出を支援する政府の政策は、男性に家事により積極的な役割を果たすよう奨励することに過度に重点を置く一方で、男女間の健全な感情的コミュニケーションを築くというはるかに重要な役割を強調することを怠り、こうした要因に対処できていない。

プロジェクトの結果を総合すると、日本にはジェンダー規範、社会における女性の役割、そしてこれらの問題に対する政府の対応に関連する重大な問題が依然として存在することが示唆される。しかし、どの分野においても、日本社会における女性の安全と幸福を大きく向上させるような解決策を見出す余地があることは明らかである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Gavan Patrick Gray	4. 巻 2
2. 論文標題 The Politicization of Sexual Violence in Ukraine	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Hestia Review	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 1件/うち国際学会 15件）

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Fragile Safety: Gender-based Threats to Women's Mental and Physical Health in Japan.
3. 学会等名 4th Global Congress on Gender and Sexuality Studies, Budapest, Hungary, 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Gender-based Harassment in Japanese Institutions: A Soft Policy Response Aimed at Normative Change
3. 学会等名 5th Global Conference on Women's Studies, Dublin, Ireland, 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Gender-related Policy-making in Japan from an Educational Perspective (Workshop),
3. 学会等名 Hestia 2023 Symposium, Kyoto, Japan, 2023.（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray and Patrick Strefford
2. 発表標題 Educational Mobility (and EMI) as a tool for political gender empowerment in ASEAN.
3. 学会等名 5th Annual Hestia Conference, Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Fragile Safety: Gender-based Threats to Women's Mental and Physical Health in Japan.
3. 学会等名 4th Global Congress on Gender and Sexuality Studies, 12 June, 2023, Budapest, Hungary. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Gender-based Harassment in Japanese Institutions: A Soft Policy Response Aimed at Normative Change. , 28 July, 2023, Dublin, Ireland.
3. 学会等名 5th Global Conference on Women's Studies, 28 July, 2023, Dublin, Ireland. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Gender-related Policy-making in Japan from an Educational Perspective.
3. 学会等名 Hestia 2023 Symposium, 9 September, 2023, Kyoto, Japan. (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray and Patrick Strefford
2. 発表標題 Educational Mobility (and EMI) as a tool for political gender empowerment in ASEAN.
3. 学会等名 5th Annual Hestia Conference, 9th March 2024, Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Caging Desire: The Commercialization of Sexuality in Modern Japan
3. 学会等名 Evil and Sexuality Global Inclusive Interdisciplinary Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Hidden Borders: The Impact of Gender and Sexual Norms on Interpersonal Relationships in Japan
3. 学会等名 2nd International Conference on Gender Studies & Sexuality (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Rising Up: The Science Behind Lasting leadership
3. 学会等名 Unstoppable - Women Overcoming Barriers to Success Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Combatting Sexist Hate Speech
3. 学会等名 Unstoppable - Women Overcoming Barriers to Success Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 Threat to Life: The Unacknowledged Dangers of Marginalised Women in Japan
3. 学会等名 3rd International Conference on Gender & Sexuality (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 The Politicisation of Sexual Violence in Ukraine
3. 学会等名 4th Annual Hestia Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 In the shadow of the Olympics: Gender-based Violence in Japan
3. 学会等名 Gifu Seitoku Gakuen University, Guest Lecture on Multicultural Patterns, No.3 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gavan Patrick Gray
2. 発表標題 A surfeit of Tolerance: Gender Violence in Japanese Society
3. 学会等名 Second International Conference on Sexual Violence, Prague, 2020 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Gavan Patrick Gray	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 18
3. 書名 The Commodification of Sex in Modern Japan: Outdated Attitudes and Overdue Reforms, in 'Gender Violence, the Law, and Society'.	

1. 著者名 Gavan Patrick Gray	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 13
3. 書名 Legal Responses to Sexual Violence in Japan: First Steps in a Lengthy Process of Rehabilitation, in 'Gender Violence, the Law, and Society'.	

1. 著者名 Gavan Patrick Gray	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 17
3. 書名 Japanese Gender Norms and Their Impact on Male Attitudes Toward Women, in 'Gender Violence, the Law, and Society'.	

1. 著者名 Gavan Patrick Gray, Nidhi Shrivastava, and Deepesh Dayal	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 9
3. 書名 Section I: Gender-Based Violence, in 'Gender Violence, the Law, and Society'.	

1. 著者名 Gavan Patrick Gray, Nidhi Shrivastava, and Deepesh Dayal	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 9
3. 書名 Section II: Gender-Based Violence and the Law, in 'Gender Violence, the Law, and Society'.	

1. 著者名 Gavan Patrick Gray, Nidhi Shrivastava, and Deepesh Dayal	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Emerald Publishing	5. 総ページ数 7
3. 書名 Section III: Gender-Based Violence and Society, in 'Gender Violence, the Law, and Society'.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------